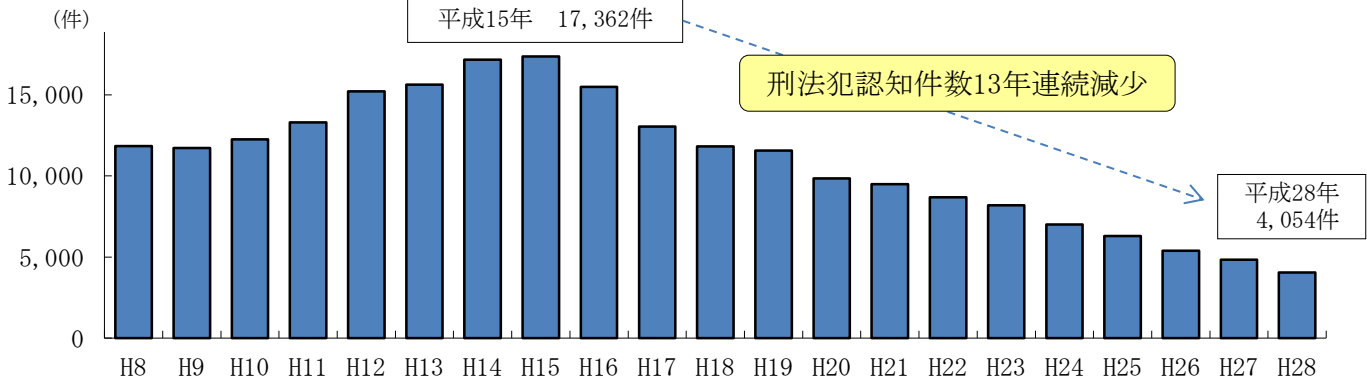


1 刑法犯

(1) 刑法犯認知件数 (過去20年間の推移)

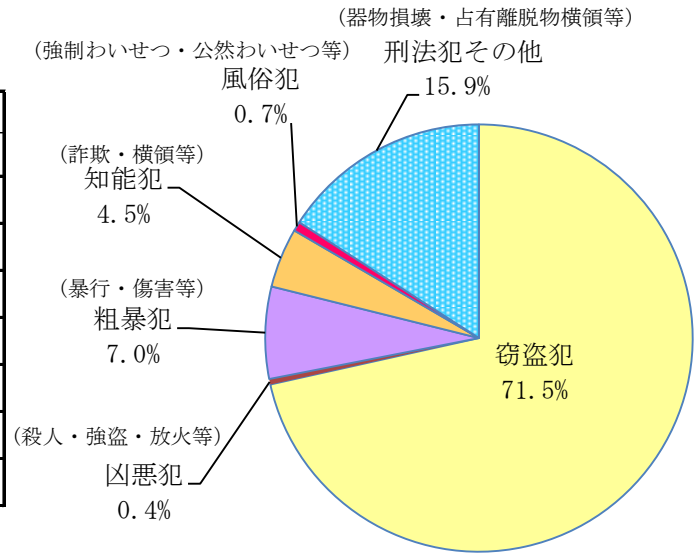


刑法犯認知件数は、平成10年から増加し続け、平成15年には1万7,362件に達しましたが、平成16年からは減少に転じ、平成28年は4,054件と、ピーク時の4分の1以下にまで減少しています。

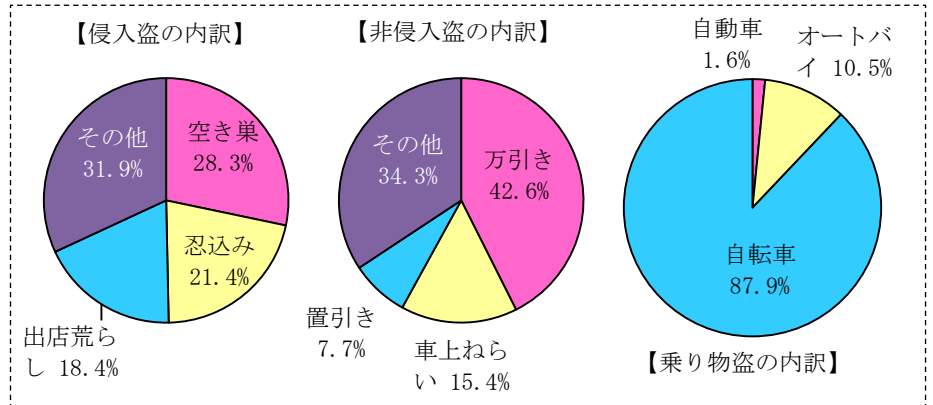
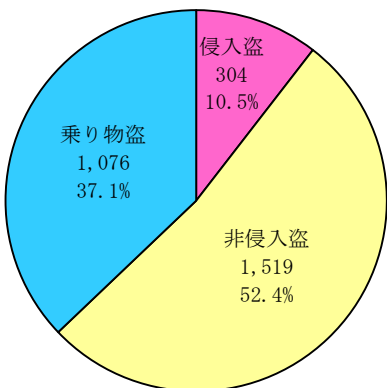
※「刑法犯」とは、刑法に規定する罪並びに「爆発物取締罰則」などの特定の法律に規定する罪をいう。
 ※「認知件数」とは、警察において発生を認知した事件の数をいう。

(2) 刑法犯の罪種別 (前年対比)

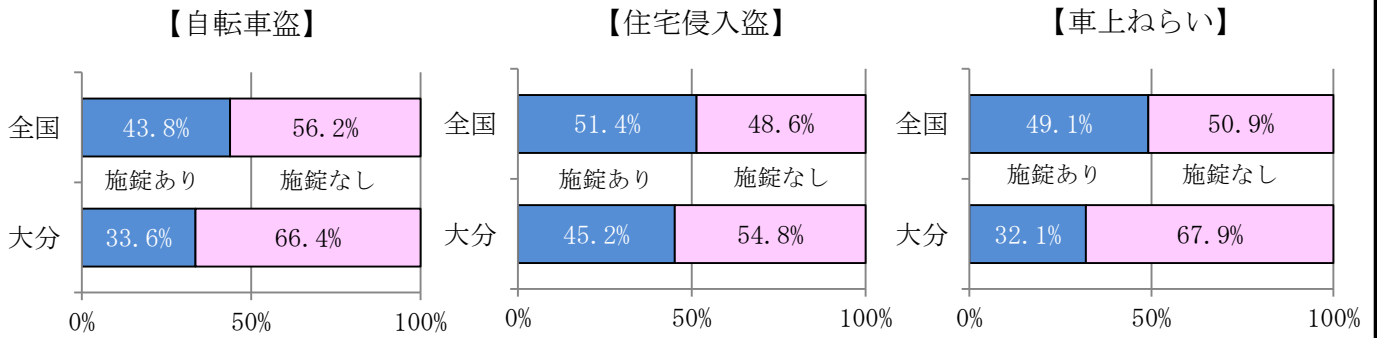
	認知件数		増減状況	
	平成29年	平成28年	増減数	増減率
刑法犯	4,054	4,843	-789	-16.3%
凶悪犯	17	20	-3	-15.0%
粗暴犯	282	273	9	3.3%
窃盗犯	2,899	3,582	-683	-19.1%
知能犯	183	238	-55	-23.1%
風俗犯	29	43	-14	-32.6%
その他	644	687	-43	-6.3%



【窃盗犯の内訳】



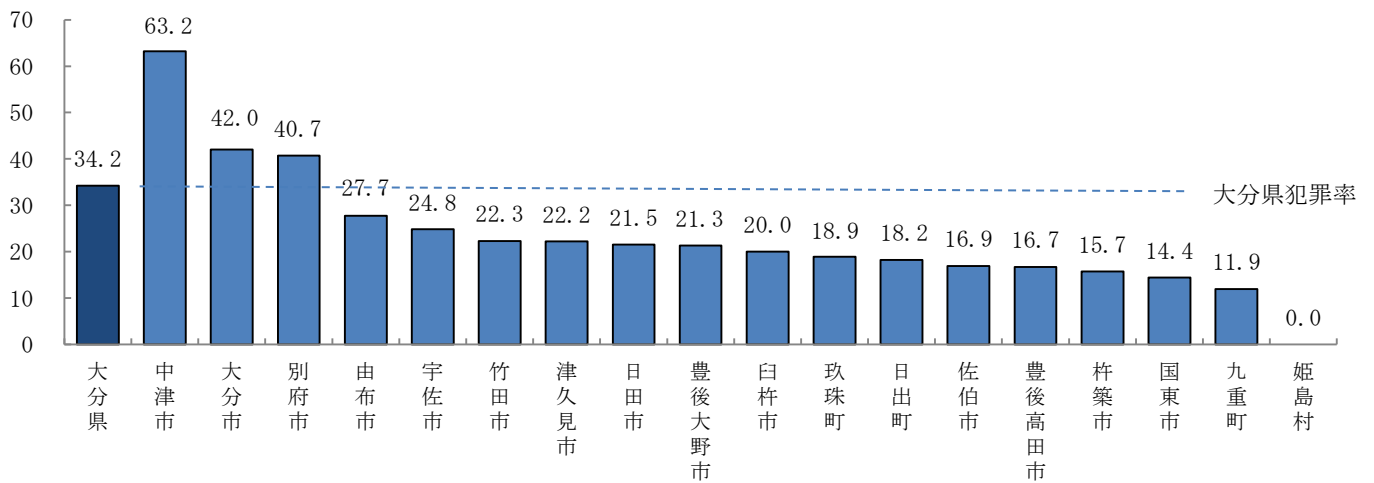
(3) 被害時の施錠状況



大分県の施錠率（犯罪被害時における施錠実施率）は、全国平均よりも低い状態です。県民の防犯意識の高まりにより施錠率が向上すれば、被害の減少が期待できます。

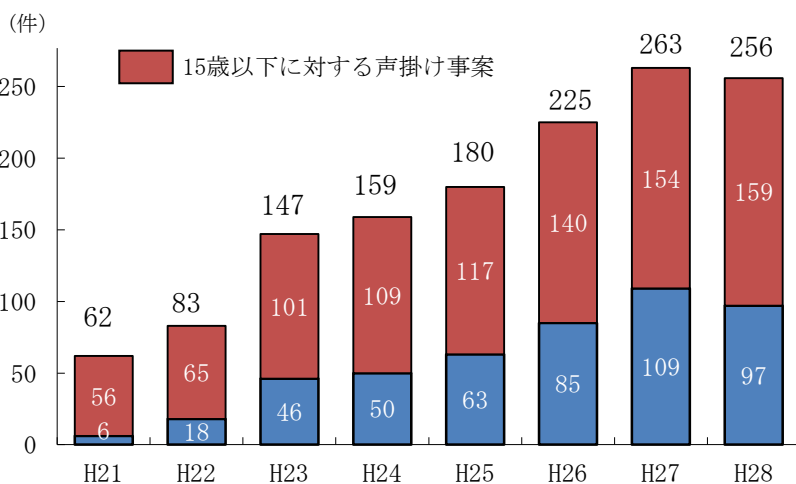
(4) 市町村別犯罪率

※ 「犯罪率」とは、人口1万人あたりの刑法犯認知件数をいう。

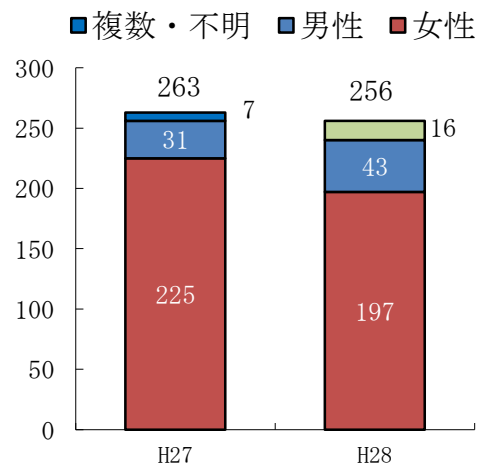


2 子供・女性に対する声掛け事案

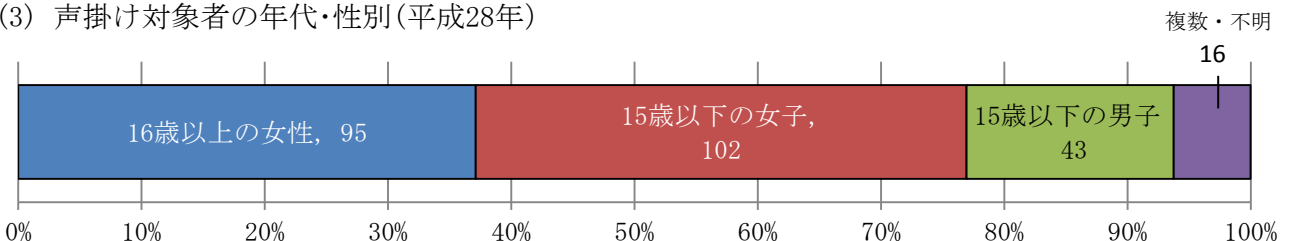
(1) 声掛け事案の推移



(2) 声掛け対象者の性別

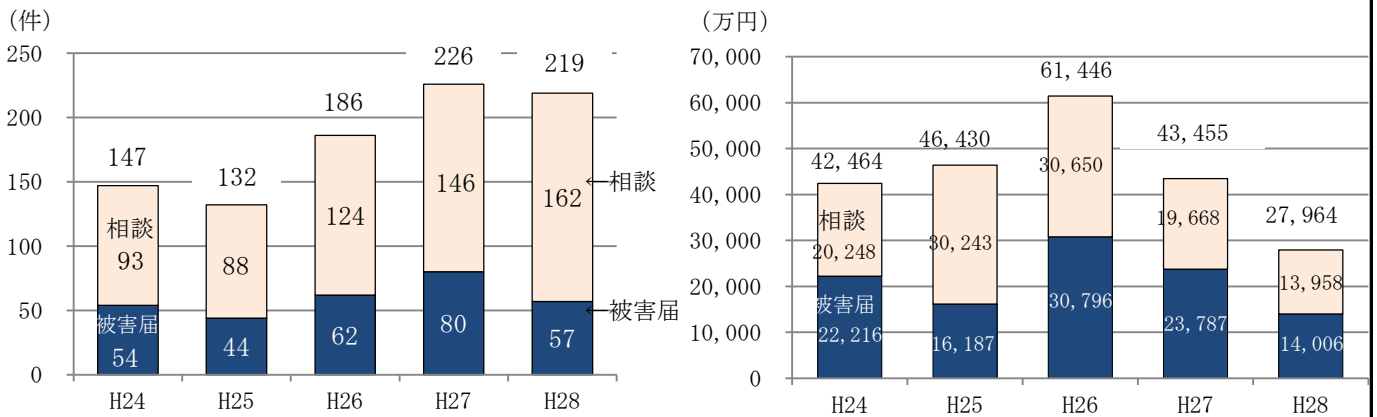


(3) 声掛け対象者の年代・性別(平成28年)



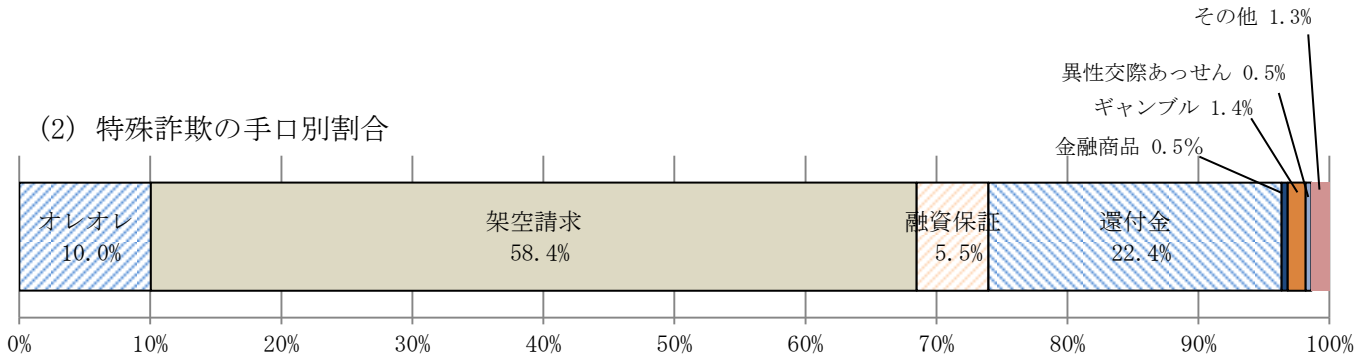
3 特殊詐欺の現状

(1) 被害件数・被害額の推移



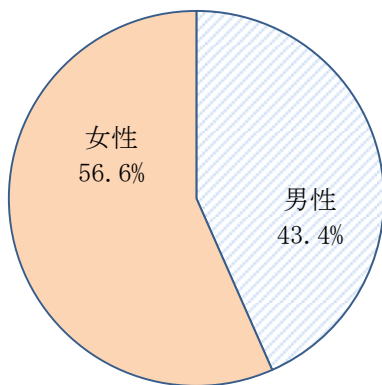
大分県警察では、特殊詐欺の被害実態を県民の皆様にご覧いただくため、平成24年から、被害届の受理件数と相談で受理した既遂被害の件数を併せて計上しています。
 平成28年の特殊詐欺の被害件数は219件、被害額は約2億7,964万円で、前年と比べ、件数では7件、被害額では約1億5,491万円減少していますが、依然、高水準で被害が発生しています。

(2) 特殊詐欺の手口別割合

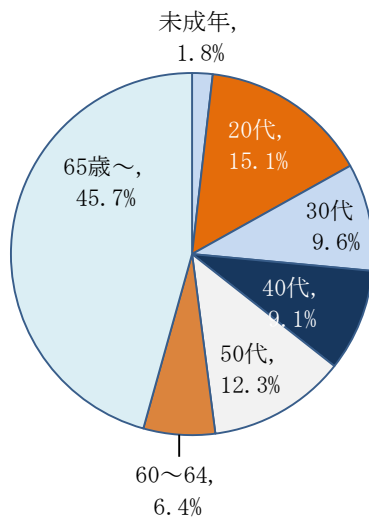


(3) 特殊詐欺被害者の状況

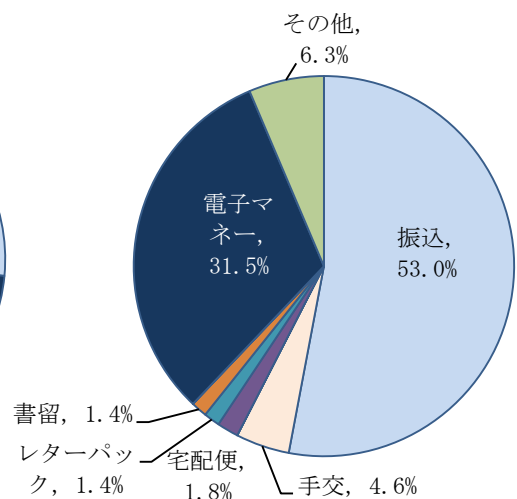
【男女別】



【年齢別】



【被害金交付方法】



- 平成28年の特殊詐欺被害者の年齢別では、高齢者以外の世代が半数以上を占めており、高齢者以外の世代の被害が増加しています。
- 手口別では、高齢者は「オレオレ詐欺」と「還付金等詐欺」、高齢者以外の世代は、アダルトサイト利用料請求名目等の「架空請求詐欺」での被害が顕著となっています。
- 還付金等詐欺では、スーパー等の商業施設に併設されたATMに誘導され、被害に遭うケースが約9割を占めています。（「ATMに行って手続き」は詐欺！）
- 平成28年の被害金の交付方法では「電子マネー（プリペイドカード）」のID番号を送付させる手口が急増しており、全体の31.5%にまで増加しています。

